

共同利用施設の再編集約・合理化に関する事例【園芸作物・果樹、中国四国農政局】

香川県 香川県農業協同組合（新基本計画実装・農業構造転換支援事業：R7～R8）

- 香川県中央地区の4集荷場を再編集約し、複数品目(野菜・果樹・花き)を扱う集出荷貯蔵施設を整備。
- 無人荷受システムを備えた野菜用冷蔵庫導入により、集荷作業の利便性と秀品率の向上、販売単価の上昇を見込む。

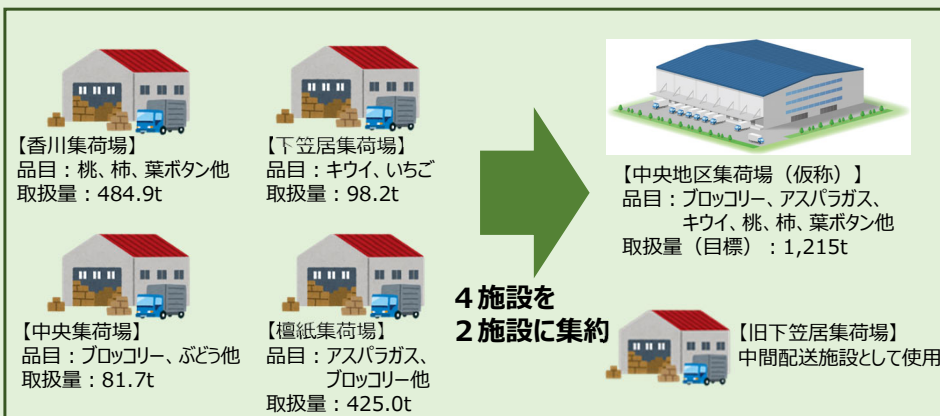
現状・課題並びに再編集約等の内容

【産地の現状・課題】

- 集荷場の老朽化による修繕費の負担に加え、生産者の減少と栽培面積の縮小により施設稼働率の低下が進んでいる。
- 各集荷場それぞれから市場に出荷しているため、輸送コストが負担となっている。
- 生産者の選別作業を含めた出荷調整に関する作業時間が多く、栽培管理や規模拡大の障害となっている。

【再編集約の内容】

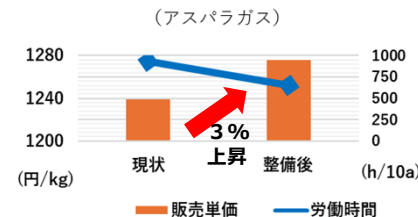
- 4つの集荷場を再編し、無人荷受システムを有する野菜用大型冷蔵庫を備え、複数品目（野菜・果樹・花き）を取り扱う集出荷貯蔵施設を新設する。
- 既存集荷場については、解体あるいは集出荷機能を停止して、資材倉庫や中間配送施設として活用する。



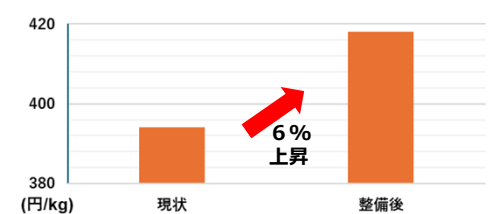
再編集約・合理化等で期待される効果

- 選果機能が集約されることで、施設の管理維持費の低減、年間稼働率の向上、人件費の削減を図る。
- 再編集約し物流を一本化することで、集荷時間の短縮と輸送コストの低減が見込め、遠隔地への輸送も継続できる。
- 野菜の無人冷蔵荷受システムの導入を通じて、集荷作業の利便性を高め、秀品率の向上及びストックコントロールの改善による販売単価の上昇を見込む。特にアスパラガスについては、施設の出荷調整機能強化により生産者の出荷調整作業の省力化が図られ、収量・品質向上に向けた栽培管理や規模拡大に集中して取り組める。

【単位当たり労働時間及び販売単価の向上】



【販売単価の向上】（ブロッコリー）



他産地へのメッセージ

- JA香川県では、県内で稼働している全ての共同利用施設をリストアップして格付けし、再編集約・合理化の取組を行う必要がある施設に優先順位をつけた再編実行計画を策定し、将来像を描きながら事業活用に取り組んでいる。
- 再編実行計画では再編基準を設けた上で、再編集約すべき施設を選定しているため、産地の合意形成を進める中で、公平公正な判断材料となり、事業の活用推進につながっていると思われる。